

らない。政府はそのため、早急に沖縄在住科学者を日本学術会議会員選挙の有権者に認定するための予算措置を講ぜられたい。

(3) 沖縄県との学術交流を促進すること。

説明：上記諸目的と関連して、沖縄県在住科学者が日本学術会議各種委員会へ参加し、また本土科学者が頻繁に沖縄県における日本学術会議関係諸会合に出席して、沖縄県との学術交流の促進に寄与しうるよう、これらの旅費についても特別の予算措置を講ぜられたい。

9-4

総学庶第903号 昭和47年7月5日

文部大臣 高 見 三 郎 殿

日本学術会議会長 越 智 勇 一

昭和48年度科学研究振興に必要な予算について(申入れ)

標記のことについて、本会議第407回運営審議会の議に基づき、下記のとおり申し入れます。

記

文部省所管の科学研究振興費、特にそのうちの科学研究費補助金のわが国の基礎科学の振興に果たす特色ある役割とそれがわが国の科学研究の調和ある発展に対してもつ重要な意義にかんがみ、その大幅な増額については科学者がひとしく要望しているところである。

また、本会議はすでに政府に対し「科学研究計画第1次5か年計画」(昭和40年)、「科学研究基金(仮称)の設置について」(昭和42年)、および「科学研究5か年計画について」(昭和46年)の勧告を行なった。

そのなかで、科学研究基金(仮称)を設けるなど、科学研究振興のために国家経費を画期的に増額すると同時に、その体系を整備し、運用を改善すべきことを提唱した。その基本構想はいまだ実現しておらず、将来、科学研究費補助金のあり方と関連して、さらに検討を加える必要がある。

以上の経緯をふまえ、本会議は毎年、科学研究費補助金について、この総額を大幅に増額し、細目区分ごとの割当金額を適正ならしめるよう文部大臣あて申し入れてきたところである。しかし、その増額の程度はなお十分でなく、昭和47年度においては予算総額100億円に対して、申請金額は507億円にも達している。

したがって、昭和48年度においては、少なくとも申請金額の半ば程度を満たすことを目途として、総額ならびに区分を下表のとおりとすることを適当と認め、その実現を強く要望するとともに、これを科学研究の調和的発展のために有効適切に使用方法についてもさらに配慮を加えられるよう希望する。

区 分	金 額 (百万円)
科学 研究 費	2 4, 2 0 0
特定研究(A) { がん特別研究 }	1, 6 0 0
” (B) { 災害科学特別研究 }	3, 2 0 0
総 合 研 究	2, 7 0 0
一 般 研 究	1 3, 2 0 0
奨 励 研 究	9 0 0
試 験 研 究	2, 0 0 0
海外学術調査	6 0 0
研 究 成 果 刊 行 費	8 0 0
合 計	2 5, 0 0 0

なお、昭和48年度の特定研究B)として、本会議は以下に列挙する領域を選定したので、ここに申し入れる。貴省において領域を決定されるにあたっては、あらかじめ本会議と十分に打合せを行なわれるよう要望する。

昭和48年度特定研究(B)の領域

科学教育（教育工学を含む）

生物環境制御

人間の生存にかかわる自然環境に関する基礎的研究

核 融 合

結 晶 成 長

環境汚染制御

（ 以上は継続 ）

第2次世界大戦に関する研究 （ 人文・社会科学関係 ）

物 性 制 御 （ 自然科学関係 ）

生体高分子 （ ” ）

複 合 材 料 （ ” ）

広域・大量情報の高次処理 （ ” ）

心臓・血管系 （ ” ）

神 経 科 学 （ ” ）

免疫学の基礎的研究 （ ” ）

国 土 問 題 （ 複合領域関係 ）

（ 以上は新規 ）